

Y.I.（社会システム学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が大学での留学を考えたのは、高校生のときの2週間の語学留学がきっかけでした。その2週間があまりにも短く、しかしその少ない時間で友人ができ海外での勉強に魅力を感じました。もちろん英語力の向上も目的でしたが、自分の知らない町での出会いや体験をしてみたいと思っていました。1年の留学も考えていましたが、新しくこの半年の Semester 留学ができ日本の大学生生活でもしたいことと両立できると考えたからです。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してからは、特に会話練習、スピーキングとリスニングを中心に勉強しました。ホームステイでの毎日の会話もありますし、日常会話に力を入れました。ビザの申請手続きは初めてのことばかりで難しく時間もかかりました。少しずつ時間を作って調べながら慎重に準備を進めました。

③ 現地到着後

現地の空港には PIA のホームステイ担当の方が迎えにきてくれました。ホストファミリーが不在だったのでその担当の方の家に2日ほどお世話になりました。学校初日にオリエンテーションとテストがありました。新しい環境と人と接する日が数日続きました。行きは時差ボケがとてもひどかったのですが、少し日にちに余裕をもって行ってよかったと思います。日本での手続きはたくさんありましたが、きちんと準備していけば現地での手続きなどは簡単なものでした。カードや保険など、現地のほうが安いことや便利なこともあります。英語で難しいこともあるので、日本でよく調べて準備していったほうが良いと思います。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

勉強するための施設はとても整っていました。図書館での勉強スペースもあり、パソコンも自由に使える、放課後の学習支援もありました。学習支援は、先生との1対1でのサポートと週に一度のグループ学習でした。グループ学習とは、クラス関係なく生徒が集まりみんな自由に話し合うものです。先生は授業外でも課題を見てくださったりといつも熱心に対応してくださいました。

◆ **授業内容、課題、試験**

授業は4技能別、レベル別で週に4日です。基本的に先生とクラスメイトとの会話に重点をおいた授業でした。課題は小テストへの準備や復習でプレゼンの準備もありました。試験は1タームに midterm テストと final テストと大きくふたつあり、どちらも普段のクラス内容にそったものでした。

◆ **サービスマーケティング**

1人2つの仕事先をリストから選び、履歴書から面接まで準備を普段のクラスと同時平行で進めていきます。週に1度、授業後に対策授業がありました。私は、子供向けのアートスタジアム（CHAP）とホームレスの人への施設（JOIN）でお世話になりました。メリットは日本人と接する機会がとても少ないこと、興味のある職場を内側から見るができること、英語を常に使ってもらえる環境にいられることです。また、現地に住むアメリカの人たちとも仲良くなることができました。

⑤ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

週末に PIA の課外活動として、有名な滝やシアトル旅行のプランがあり、希望すればいつでも参加することができました。

⑥ **現地での住まいについて**

とても大きな家で広々とした部屋を使うことができました。食事は毎晩、ホストブラザーが準備してくれ、ホストファザーと一緒に食べていました。ベジタリアンのホストブラザーでしたが、しばしばお肉を調理してくれました。通学には毎日、バスを利用していました。家からバス停までが遠く、大変でしたがバスから学校までは一本で行けました。

⑦ **長期休暇の過ごし方**

クリスマス前後は、ホストファミリーと過ごしました。ツリーの用意をしたり、ホストファミリーの孫へのプレゼントのラッピングを手伝ったりしていました。町へは友人と頻繁にでかけ、アメリカのクリスマスムードを存分に味わいました。当日は、兄家族の家にお邪魔しクリスマスを楽しみました。年末年始は、他国を含めた友人とカナダのバンクーバーへ旅行しました。シアトル経由でバスと電車を利用し、自分たちでプランをたてました。カウントダウンを友人とし、国際免許を持つ友人がレンタカーを運転してくれたのでいろいろな場所へ観光することができました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

私は、とにかく街へでかけ、いろいろなものを見に出かけることが楽しかったです。一ヶ月のバスの定期券を毎月買っていたので、それを学校のない日にもたくさん活用しました。ダウンタウンだけでなく、現地の友人に教えてもらった穴場スポットや美味しいお店に行き、自分の目で見て感じられることが本当に楽しかったです。そして、学校でできた友人との毎日やお出かけ、放課後のおしゃべりはいつも楽しく、今なかなか会えないことが本当に寂しいです。最も思い出に残っていることは、ホストブラザーの映画撮影の仕事やCM作成についていき、現場の仕事を見ることができたことです。実際に、ショートムービーにでることもでき、夢のようでした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

サービスマンニングでの会話がはじめは特に苦勞しました。お客さまを相手に会話することもあったので、語学を勉強している学生だという認識が相手にはなく、通じないこともしばしばで大変でした。最も苦勞したことは、ホストファミリーとのはじめの話し合いでした。生活の習慣もちがい、それぞれが思うやり方も違うので、お互いの折り合いをつけ、どういう生活をしているのかを知るところから始まるので、苦勞しました。

III. 留学希望者へのアドバイス

行きたいと思うところや、話してみたいと思う相手にはとことん自分からアプローチしていくことが必要だと思います。実際に、予約が難しかったり、行きかたが難しかったりしますが、その過程も次からいろいろなことを自分でできるようになっていく自信にもつながりますし、自分の目で見たものはなかなか忘れず大切な思い出になります。自分の英語や会話力に自信がなくても、話したい！相手を知りたい！という気持ちが強ければ、話すことができます。そこから、友人になることができたりさらに新しいことを知ることができると思います。外にでてみたいな、海外で勉強したいな、と少しでも思う方は大学生のうち一度チャレンジしてみてください！楽しいですよ！

IV. 将来の目標

将来は日本を中心に海外にも繋がりをもった仕事がしたいと思っています。まだ、漠然とした夢ですが、自然にも人にも優しいものを大切にするオーガニック志向や独自でビジネ

スを立ち上げる若者が多くいたり、ポートランドに行ってしてみたいことがさらに増えました。



他国の友達もまじえて、冬休みを利用して一緒にカナダのバンクーバーへ行きました。



映画のプロデューサーであるホストブラザーの仕事場にお邪魔して、ハロウィーンのショートムービーに参加することができました。

A. K.（社会システム学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後に事前授業があり、国際交流センターのスタッフの方々が留学に関わる説明をしてくださりました。授業内では、留学先で研究するテーマを決め、また、留学前、留学期間中、留学後の目標を各自立て、発表しました。セメスター語学留学は新しい留学プログラムで前例がなかったのですが、私たちが行く語学学校の運営機関の方が同志社女子大学に来てくださり説明してくださったので、より安心して留学に行くことが出来ました。留学前は TOEIC を受けるように指示があったので、TOEIC の勉強をし、また日常会話のテキストを買って声に出して練習するようにしていました。一番大変だったことは、VISA の申請です。申請に必要な書類集めや、銀行手続きに時間がかかり、また VISA 申請の記入も英語だったので理解するのが大変でした。専門機関に頼むことも出来ましたが、友達と助け合い、何とか自力で終わることが出来ました。

② 現地到着後

空港には事前に申し込んでいたため、語学学校のスタッフの方が迎えに来てくれていました。私のホストファミリーが教会に行っていて家にいなかったため、スタッフの方と一緒にレストランでご飯を食べました。家に着いてからは、かなり疲れていて、時差ボケにより体調も優れなかったため、爆睡してしまいました。私は学校が始まる 5 日程前にポートランドに着いたため、一緒に行った友達とポートランドの町を散策していました。学校初日と 2 日目はオリエンテーションとクラス分けのテスト、面接を受けました。

③ 語学研修機関

私は PIA という Marylhurst university の中にある語学学校に秋と冬の 2 学期間通いました。Marylhurst university は小さな大学ですが、キャンパスがとても可愛らしく、主に夜間学校なため、私たちが学校に行く昼間は生徒も少なく、とても静かで落ち着く学校でした。授業は月～木曜日に 9 時から始まる授業と、12 時半から始まる授業の 2 コマで、月・水に Grammar と Reading、火・木に Writing と Speaking & Listening のクラスがありました。学校は毎日 3 時に終わるので、放課後は毎日図書館で友達と宿題をしてから帰っていました。また放課後に毎週 1 回、先生に 30 分間マンツーマンで勉強を見てもらえるチュータリング制度の利用、グループで勉強するスタディーグループに参加したこともあり

ました。基本は週末ですが、放課後にもある学校の Activity に参加し、スタッフの人や生徒と一緒に買い物や、NBA のバスケットボール観戦に行くこともありました。PIA の生徒構成は基本的に日本人、韓国人、サウジアラビア人が多く、その他には中国人、台湾人、イタリア人、メキシコ人など様々な人種の生徒がいました。1 学期間に中間テストと期末テストがあり、テスト前は勉強やプレゼンテーション作りに追われました。

④ 現地での住まいについて

私は学校に通う半年間、現地の老夫婦と共に生活しました。広くきれいなお家で、自分の部屋もベッドが大きくとても快適でした。私のホストファミリーはとても親切で、1 日 3 食きちんと作ってくれ、お母さんは半年間毎日私と友達を学校まで送ってくれました。私がこの家で暮らし始めた頃は、一人の日本人が暮らしていて、彼女は別の学校に移る直前だったため、一週間だけ一緒に生活しました。彼女は私がホストファミリーと早く溶け込めるように気遣ってくれ、とても感謝しています。彼女が家を去ってからは、積極的に自分からホストファミリーに話しかけるように意識しました。初めは会話が理解できずホストファミリーに何度も同じことを言ってもらい、また自分の英語のレベルの低さを何度も痛感し、落ち込みました。そんな時は、この家のペットに助けられました。この家は、犬が 2 匹、猫が 2 匹、鳥が 4 匹と動物好きの私には最高の環境でした。また 5 週間だけでしたが、韓国人のルームメイトとも生活し、夜遅くまで英語で話すなど私にとってとても良い環境でした。他人と生活することは気も使い、私はホストファミリーにとって邪魔者なのではないかと何度も思いましたが、あなたは家族の一員だと言ってもらえた時は本当にうれしかったです。

⑤ 長期休暇の過ごし方

秋学期と冬学期の間に 1 か月程休みがあったため、友達とカルフォルニア州にあるディズニーランドとハリウッド、そして電車とバスを乗り継いでカナダのバンクーバーに旅行に行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

日本に帰国した今、イベントごとや旅行をはじめ、アメリカでいた頃は当たり前だった何気ない学校生活の一日一日でさえ本当に楽しかったなと思います。放課後バスを使わず徒歩で 1 時間かけてみんなでわいわいしながら家に帰り、国籍の異なる友達の家に行ってそ

の国の伝統料理をご馳走してもらい、休日にサッカーをし、大雪の日には全力で雪合戦をしたことなど、言語が異なっても一緒に楽しめることがたくさんありました。イベントごととしては、ハロウィンの日に仮装をしてパーティに参加し、クリスマスにはホストファミリーから日本では考えられない数のプレゼントをもらい、とても驚きました。全てが良い思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

学校に入学したての頃は、特にサウジアラビア人の友だちの英語がかなりなまって全く聞き取れず呆れられました。また授業中サウジアラビア人は常に疑問に思ったことを口にしますが、日本人は基本おとなしいのでそのことにもサウジアラビア人の友だちに不満を言われ、不満を言われても授業中積極的に発言出来ない自分に苛立ちを感じました。言いたいことが英語で何と云えば良いのかわからない悔しさは、留学生活の最後まで常に感じていましたが、その悔しさによりもっと頑張ろうと最後までやる気を保つことが出来ました。一番苦労したことは、冬学期の宿題の量です。秋学期とは比べられない量の多さで、夜遅くまで眠れないこともあり、泣きながら宿題をしたこともあります。しかしそのおかげで、私は今自信を持って留学生生活を頑張ったと言えます。ホストファミリーの面では、どれぐらいの距離で接すればいいのか常に悩んでいました。他人と生活することの難しさを知りました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

サウジアラビア人の宗教の信仰心の強さに驚きました。学校でも毎日決まった時間に神にお祈りをし、女子生徒は常に顔にスカーフを巻いていました。また日本人がいかにも時間に正確かということにも気づきました。韓国人の友だちと出かける約束をしても、かなりの確率で一時間は遅れてきます。一番注意しなければならないと思ったことは、日本では良い意味の英語の言葉でも、他国にとっては悪い意味で捉えられている言葉もあるということです。私が褒めたつもりで言った言葉で相手を怒らしてしまったことがあり、気を付けなければならないなと思いました。

④ 留学先大学の良かった点、悪かった点

キャンパスがきれいで、自然が多く、雰囲気落ち着いていました。特に図書館は最新のパソコンが数多く設置されていることなど、勉強するには最適な場所でした。不便だったことは、学校周りが田舎なため、衣料品などを買うためには、バスに乗ってダウンタウンなど少し遠方まで出かけなければなりません。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ノートパソコンは持って行くべきだと思います。学校にもパソコンはありますが、家でレポートやプレゼンテーションを作れないのは、しんどいと思います。スマートフォンも Wi-Fi が繋がれば使えるため必需品です。後は、ホストファミリーへのお土産、クレジットカード、電子辞書、日本の薬、使い慣れた化粧水、洗濯ネット、折り畳み傘などは持って行って役立ちました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

Speaking は、今までは間違いを恐れてなかなか話すことが出来ませんでした。間違っても伝われば良いとプラスに考えることが出来るようになり、もっと英語で話したいと思うようになりました。Listening は、日本に帰国後 CASE の英語の授業を受けていますが、先生が言っていることがきちんと理解できるので、留学前よりもはるかに伸びたと思います。Writing は留学先で何度もエッセイの提出があったため、自分の伝えたいことをほぼ書けるようになり、留学前はぐちゃぐちゃだった文法も気にするようになりました。Reading はわからない単語があっても気にせず、その前後の文章を見ることによりニュアンスで理解し、以前よりも早く文章が読めるようになりました。目に見える成果としては、留学後に受けた TOEIC の点数が留学前よりも 170 点ほど伸びていました。英語以外の面でも、より広い視野で物事を考えられるようになったと思います。それは日本人以外の人と毎日生活して、日本とは異なること部分を知り、それを受け入れなければならない環境にいたからだと思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に少しでも興味のある人にはぜひチャレンジしてほしいです。私は高校の時に留学に行くチャンスがあったものの、どうしても勇気が出ずあきらめてしまいました。今回の留学も現地に行くまでは不安ばかりで、せっかく勇気を出して応募したことを後悔していました。しかし留学を終えた今、あの時応募用紙を提出したことを私は一切後悔していません。半年間という短い間でしたが、留学に行ったからこそ、毎日英語に触れる機会を得、国籍の異なる大切な友達と出会い、日本には出来なかった数多くの貴重な体験をすることが出来ました。決して全てが楽しかったわけではありませんが、しんどいことがあっ

たからこそ、私は以前よりも成長出来たと言えます。そして留学に行くことになった方は、現地での生活を一日一日大切にしてください。私は留學生活に慣れてきた頃、その生活が当たり前を感じてしまい、やりたいことを後回しにしてしまったことが何度かありました。半年は長いようで、短く、そして限られた時間です。その限られた時間の一日一日を大切に、充実した留學生活を送ってください！



Winter Term の最後の日に Speaking クラスのみんなと。



学校のハロウィンパーティにて。

私はなぜかコスチュームの Funny 部門で優勝することが出来ました。

M. H.（英語英文学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は、小さい頃から英語に興味があって将来も英語を使った仕事につきたいとずっと思ってきました。そのため、これまでも何度か短い期間ではありましたが、留学をしてきました。どの留学も私にとって、とても貴重で刺激的なものでしたが、それと同時にいつも、もっと長く海外にいて勉強したい、新しい文化や考えに出会いたいと感じており、大学生になったら絶対に長期で留学をしよう、と決めていました。大学に入学してから、同志社女子大学の留学説明会にも参加させて頂きながら、休学する必要もなく、単位修得も可能なこの Semester 留学プログラムへの参加を決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

これまでの留学から、留学前の学習の重要性を大きく感じていたため、留学前からできるだけ使える英語を増やせるよう努力しました。私は、TOEFL と IELTS の受験をひかえていたので、それに向けて学習しながら、単語や表現、文法の確認などをしました。さらに、通っていた英会話でネイティブの方と話すクラスを受講していたので、今まで以上に積極的に利用して、生の英語に触れる時間を増やすようにしていました。私がとても心配だったのは、ビザの申請です。アメリカの留学に必要な不可欠なものですが、自分で調べて、必要書類を準備し面接に行かなくてはならず、ビザが手元に届き、アメリカに入国できるまでは本当に私のビザが大丈夫かととても心配でした。

③ 現地到着後

空港に到着してからは、私たちの語学学校のスタッフの方が迎えに来てくださっていてホストファミリーの家まで送って下さいました。私はホストマザーと 2 人暮らしで、しかもホストマザーは昼間、家にいなかったため、ずっと 1 人で過ごしていました。オリエンテーションでは、学校内のこともですが、これから留学するにあたっての話をたくさんしていただきました。そのあとプレイスメントテストを受けて、それをもとにこれからの授業のクラス分けがされました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

私は、Marylhurst University の付属の語学学校の PIA というところに毎日通っていました。私たちの年の Semester 留学プログラムは、行き先が1つでしたので、選択はありませんでしたが、治安も良く、バスを利用すればすぐダウンタウンにも出られるし、とても住みやすい場所でした。PIA のスタッフの方々もどんなときも家族のようにあたたかく迎えてくださる方たちで大好きでした。学習のことやホームステイのことも含めてなんでも相談に乗ってくださって本当に感謝しています。

◆ 授業内容、課題、試験

私たちは英語の 4 Skills のクラスを受講していました。学校は月曜日から金曜日の 9時から 15時までで、月曜日と水曜日は Grammar と Reading のクラスで、火曜日と木曜日は Writing と Speaking のクラスでした。1つの授業は長いですが、途中で休憩もあります。授業や宿題の大変さはレベルによって大きく変わってくると思いますが、私のクラスは本当に大変でした。私はサービスマニエールのプログラムには参加せず、2つの Semester とも授業を受けたのですが、2つめの Semester の時は、本当に課題に追われて寝る時間がないくらいたくさん課題がありました。さらに、大学の授業を受講する機会もいただいて、そちらにも参加させてもらっていたので、試験が近づくと気持ち的にもとてもナーバスになり、しんどい時も多かったですが、あんなに英語だけに集中して頑張れる時はめったにないと思うので、今は頑張って本当に良かったと思っています。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

PIA にはアクティビティがたくさんあって、最初の頃はよく参加していました。PIA の他の生徒のみなさんたちとの交流もできるし、自分たちだけではなかなか行きづらいようなところへ行くことのできるアクティビティもあったのでとても良かったです。PIA のアクティビティにはハロウィンやクリスマスなど季節のイベントごとにもパーティがあり、とても楽しかったです。

⑥ 現地での住まいについて

私は、学校からバスで 15分くらいのところにホストマザーと一緒に生活していました。最初、ホストマザーは帰って来る時間がいつもバラバラで、夜ご飯を勝手に食べて良いのかもわからず、ずっと遅くまで待っていて、ホストマザーが帰宅して夜ご飯を作ってくれる、という感じでしたが、生活リズムがなかなかつかめなかった上に、ホストとの時間も

なかなかとれなかったため、PIAのスタッフの方にも相談したところ、夜ご飯を一緒に作っては、と提案してくださり、それから平日はほとんど毎日、一緒に夜ご飯を作るようになりました。課題が多い中、毎日一緒に夜ご飯を作る時間を確保するのが大変なときもありましたが、ホストとたくさん会話できる機会ですんなり話をしながらご飯を準備するのはとても貴重な経験になりました。ご飯は、私自身あまり好き嫌いがなく、というのがありますが、アメリカの伝統的な料理（豆やジャガイモなど）やメキシカン料理など私は、おいしくいただきました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は2回ほどありましたが2回とも自分たちで計画してアメリカ国内を旅行しました。私は、ロサンゼルスに2回とニューヨーク、そしてホストファミリーに連れて行ってもらってアイダホとシアトルへも2回行くことができました。自分たちでホテルも飛行機も全て英語で予約するので、ハプニングももちろんありますが、仲間と一緒に乗り越えた思い出も含めて、とても楽しく半年間の留学の中でも印象的な思い出です。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことを挙げだしたらきりがありません。年末にかけて、ホストマザーの実家に一緒に連れて行ってもらって過ごしたクリスマスも、ホストの親戚のみなさんにまで本当に良くしていただいて最高のクリスマスでしたし、友だちとの旅行もいろんなところに行けて本当に楽しく、一生忘れられない思い出になったと思います。課題も大変でしたが、そんな中でも時間を作って、学校で出会った友だちとご飯へ行ったりどこかへ遊びに行ったりしたことも、ホストマザーと夜ご飯を一緒に作った時間も一緒に映画を見た時間もどれも本当に良い思い出に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最初に来て辛かったのは、雨季だったということです。毎日、毎日、雨ばかりで、慣れない頃は、本当に気持ちがブルーになりました。最後は私も現地の方たちのように傘なしで走り回るくらいになっていましたが、もう一つあげるなら、やはり課題です。課題は最初から最後まで本当に苦労しました。でもPIAのスタッフの方たちも願いをしたら、本当に親身になって助けてくださるので、本当にお世話になっていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私はもともと異文化に興味があり、新しい文化や習慣を発見するのが好きなので、そんなにひどく驚いたことはありませんでした。PIA には世界中のいろんな国から英語を学びに来ているので本当にたくさんの新しい文化や習慣に出会えました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須だと思います。課題など印刷して提出しないといけないものも多かったです。学校にもありますが、自分のパソコンがあったほうが慣れているものでスムーズにできるし、家で課題ができないのは厳しいのではないかな、と思います。逆に、服や靴、シャンプー、リンス、ボディソープなどは現地で購入できるので特別こだわりがない限り持っていく必要はないと思います。ただ、シャンプーなどは日本のものより潤わない上に、水も日本と違うため髪の毛は傷みやすいと思います。私はトリートメントは日本から持って行きました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力の向上として、一番感じたのはリスニング力です。PIA の授業も厳しかったのでリーディングやライティングについて学んだことも多かったし、スピーキングに関しても留学前より、自分の思ったことを表現することができるようになったと感じましたが、一番はリスニングかな、と思います。また TOEIC のスコアも帰国前より大きくのびました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

苦しいことも楽しいことも全てが日本ではできない貴重な経験として楽しんでください！私は留学にいく度に日本がもっと好きになるし、日本の良さにたくさん気づいて帰ってきます。でも、それでもまた新しい人に、文化に、考えに出会いたいと思って海外に行きます。そこが留学の良さだとも思っています。この半年間を通して、私自身、考え方や価値観、視野も大きく変わったと思います。そして、やはり、いろんな国の人と出会えることが留学の一番の醍醐味だと思います。もちろん向こうで出会った日本人もですが、本当に一生の友だちになったと思っています。学習に関しても苦勞することが多いと思います。私も言われたのですが、先生方は私たち生徒が頼ってくれるのを待ってくださっています。わからないところがある場合や、行き詰ったときはどんどん先生に聞きに行き行って助けてもらってください。そうやってコミュニケーションを取る中でも学べることは多かったです。

IV. 将来の目標

やはり、英語を使った仕事に就けたらいいな、という気持ちは変わっていません。英語力が低下しないよう維持しながら、頑張って夢に近づけられるように努力していきたいです。



PIA の友だちと Marylhurst University の前で♪



ホストマザーが私の Half Birthday Party を開いてくれました♪
私の友だちやホストマザーの友だちも来てくれてとても嬉しかったです。